

事業の基礎情報

実施主体	ふじM a a S 推進協議会
事業実施地域	富士市
共創の類型	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	商業・観光・まちづくり
共創パートナー	富士急静岡バス株式会社、東急株式会社、（一社）富士山観光交流ビューロー、富士商工会議所、静岡県ほか
運行形態	路線バス
運行主体	富士急静岡バス株式会社

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

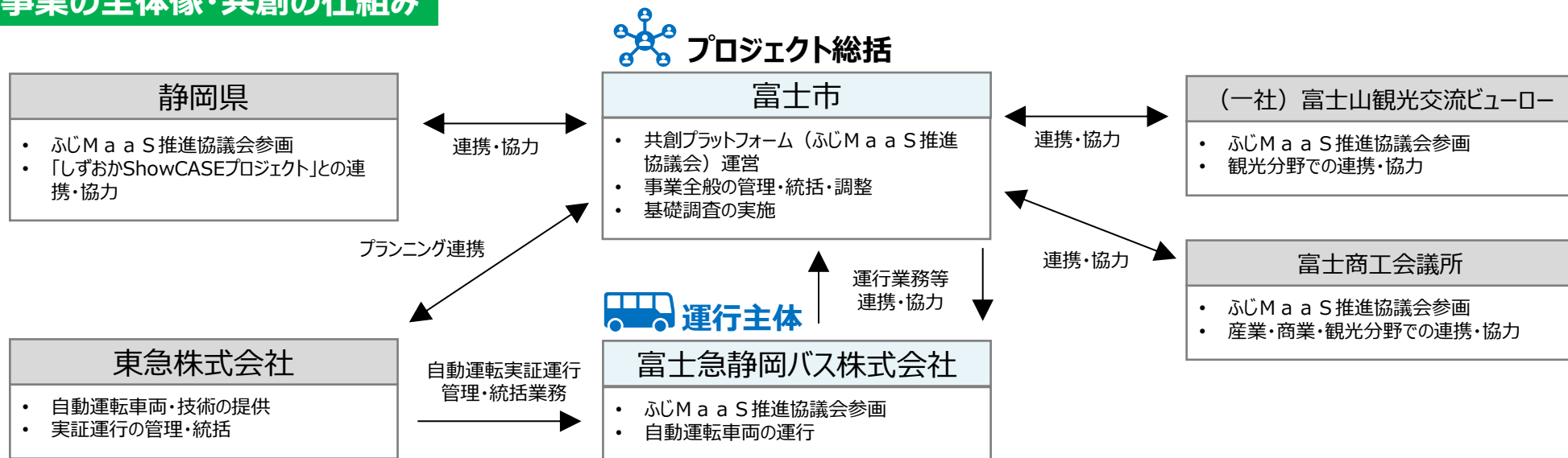
富士市の都市構造は、合併を重ねてきた歴史もあり都市拠点や生活拠点が分散するとともに、市街地が低密度に拡散している「拡散型都市構造」となっており、持続可能な都市経営を行うためには「コンパクト（集約）＋ネットワーク（連携）」の考え方のもと、鉄道や路線バスに加え、きめ細かなコミュニティ交通など公共交通の果たす役割は重要である。特に新富士駅（東海道新幹線）と富士駅（東海道本線）は約2.0km離れており、両駅の接続については本市の交通政策における重要な課題となっている。

富士市地域公共交通計画の中で幹線として位置付けている循環バス「ぐるっとふじ」をはじめ、路線バスやコミュニティバスが両駅を接続すべく運行しているが、利用者の慢性的な減少かつコロナ禍での激減に加え、昨今の深刻な運転士不足等の問題から、両駅間の移動需要に対する運行頻度等のサービスレベルの維持に課題が生じている。

（事業の概要）

上記課題を解決するため、令和5年に設立した「ふじM a a S 推進協議会」を活用し、これに参画する交通事業者はもとより、観光や産業・商業等の観点からも観光団体など他分野の関係者と連携・協働し、両駅間に自動運転（LV4）を実装し双方をシームレスに接続する。また、専用道路空間により安全性・定時性を確保し、サービスレベルを向上させることも視野に入れる。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

（地域の関係者との連携・協働）

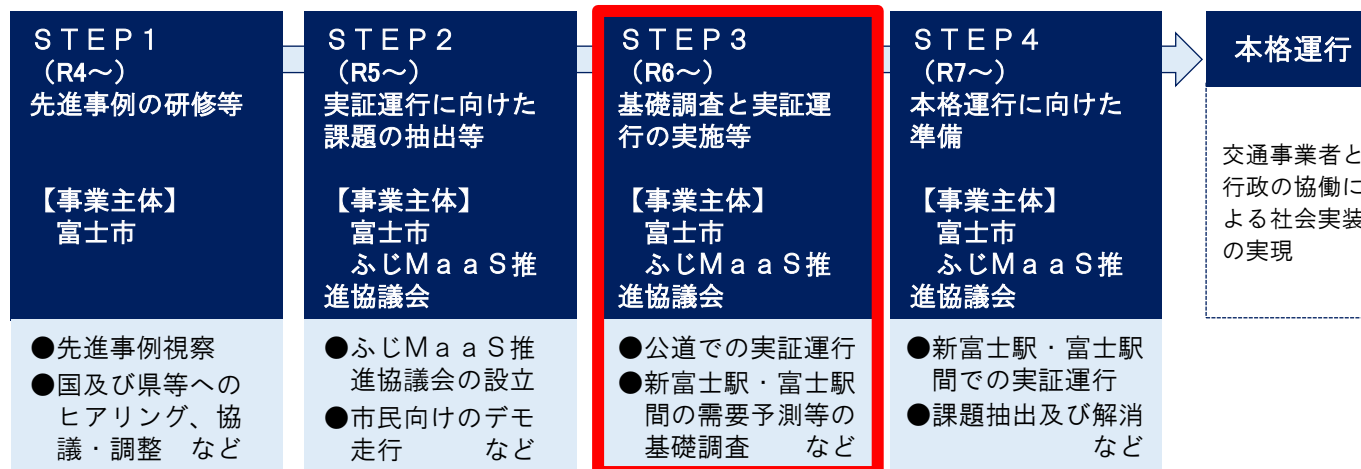
本事業における新富士駅・富士駅の接続は、富士市だけでなく、身延線沿線自治体からの要望でもあり、富士急静岡バス株式会社等の交通事業者はもとより、（一社）富士山観光交流ビューローや富士商工会議所等の観光や産業、商業等の他分野の関係者と連携・協働し、スピード感をもって取り組んでいく。

（実証事業により見込まれる効果）

新富士駅・富士駅の接続は、富士市民だけでなく、身延線沿線自治体や住民からの要望でもあり、両駅のシームレスな接続が実現することによって、住民生活のみならず国内外からの観光、ビジネス等での効果が見込まれ、その需要予測については、本事業により調査を行う。また、自動運転による接続については、交通事業者にとっては、運転士不足の解消や、新技術の導入による社会的インパクトから利用者の増加等が期待できる。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)



(補助事業実施後の予定)

上記「事業実施手順」のとおり取組の展開を予定している。次年度の実証運行（新富士駅・富士駅間の自動運転バス実証運行）については、交通事業者や自動運転関連事業者等と協議・調整を行った上で令和7年度末までに行う予定である。

次年度の実証運行終了後については、自動運転の社会実装（本格運行）に向けて引き続き実証運行を実施していくとともに、本格運行に向けて交通事業者等と各々の役割や費用負担の在り方等について協議・調整を図っていく。現時点では、道路等のインフラや路車協調システム等の整備は行政主体で行い、運行に係る費用は交通事業者が負担するものと想定している。